

2014年9月

ねん がつ
れき し 史 — No. 9

けんぱくものしりシート

りゅう 龍

とう 頭



しょうめん
正面



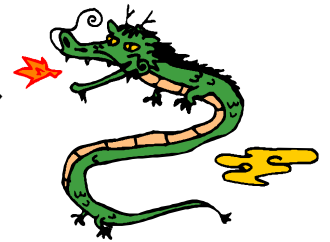
ななめ



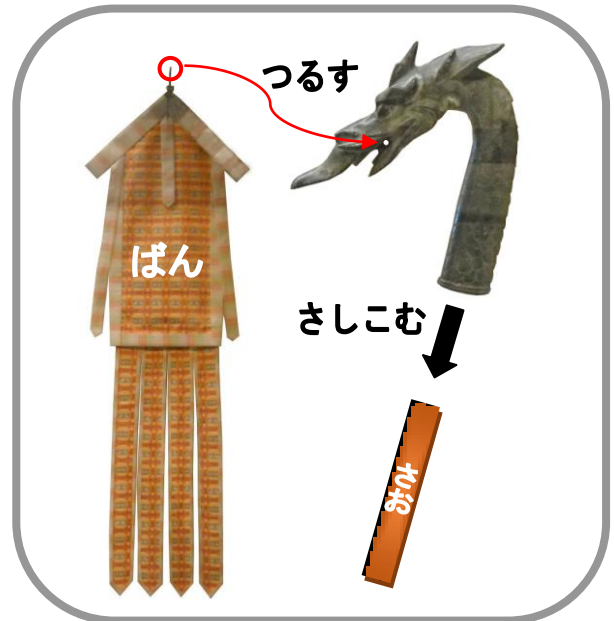
よこ
横

「りゅうず」「たつがしら」などとも呼ばれる龍頭は、「幡」というはたをつるすための道具です。幡は仏教の道具のひとつで、法要（お祈りの儀式）を行なうときにお寺の庭先に立てて飾ります。この龍頭は北上市稲瀬町の極楽寺に伝えられてきた4体のうちのひとつです。平安時代後期に作られたもので、なめらかで美しい仕上がりの見事な芸術品です。1979年に国の重要文化財（大切な宝物）に指定されました。

龍は中国の想像上の生き物で、普段は深い水の底に住み、雷雨とともに天に昇り、自由に空を飛ぶことができる特別な力を持っているといわれています。仏教の世界では守り神として大切な存在なので、龍はいろいろな道具のデザインに使われています。



ばんのかけかた

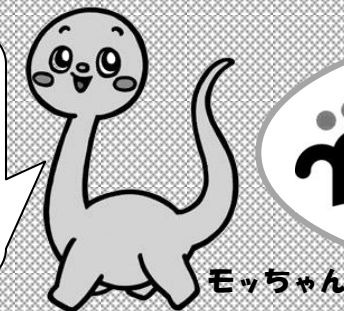


上の絵は、龍頭を使って幡をかけた様子を表しています。長いさおの先に龍頭がつけられ、幡は龍の口に空けられた小さな穴に引っかけて吊るしました。幡は長いものだと5m以上もありますが、この方法ならどんな長さのものにも対応できます。この龍頭は金属の銅でできているので、安定して吊るす事ができたでしょう。

今から1100~900年ほど前、現在の極楽寺のあたりには東北北部で最大級の仏教寺院がありました。山全体にいくつものお堂や塔が建てられており、重要な場所のひとつだったと考えられています。発掘調査で見つかったこの寺院跡は、国見山廃寺跡という名前が国指定史跡（国が重要と指定した遺跡）となっています。現在はハイキングコースが整備されており、気軽に散策できるようになっています。龍頭が使われていた平安時代の様子を想像しながら、のんびり歩いてみるのも楽しいものです。

参考にした本 『国見山極楽寺』北上市立博物館 1988年/ 『国見山自然観察ガイド』北上市立博物館1994年/
『日本の美術 No. 542 幡と華鬘』榊ぎょうせい 2011年 ほか

らいげつ がつ
来月(10月)の
けんぱくものしりシートは
みんぞく
民俗-9だよ!
おたのしみに!



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田宇松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>